

厚生労働省の E B P M 推進に係る有識者検証会

検証結果取りまとめ（案）

令和 7 年 2 月 13 日

厚生労働省の E B P M 推進に係る有識者検証会

目次

はじめに	1
1 厚生労働省のE B P M推進に係る有識者検証会における検証事項	2
2 検証結果取りまとめ	3
(1) 行政事業レビューシートの点検・助言に係る検証	3
(2) 効果検証等に係る検証	5
(3) その他E B P Mの取組に係る検証	7
(4) 今後の取組について	8
(5) その他E B P Mの取組に関する全体スキームに係る検証	10

参考資料

参考1	厚生労働省のE B P M推進に係る有識者検証会開催要綱	12
参考2	検証会の開催状況等	14
参考3	第1回厚生労働省のE B P M推進の推進に係る有識者検証会資料	} (添付省略)
参考4	第2回厚生労働省のE B P M推進の推進に係る有識者検証会資料	

はじめに

当検証会は、厚生労働省統計改革ビジョン 2019 工程表（令和元年 10 月 8 日）（以下「工程表」という。）等に基づき、外部有識者による E B P M の実践状況の検証等を行い、E B P M の更なる推進を図ることを目的として、厚生労働省から委託された株式会社メトリクスワークコンサルタンツが参集を求めて開催されたものであり、令和 6 年 12 月 9 日から令和 7 年 2 月 13 日まで計 2 回にわたり、厚生労働省における E B P M の推進に係る取組について検証を行った。

本取りまとめは、以上の検証結果を当検証会の責任において取りまとめたものであり、厚生労働省においては本取りまとめにおける指摘等を踏まえ、今後の E B P M の推進に係る取組を進めることを期待する。

なお、内閣官房行政改革推進本部事務局は、年度ごとに E B P M の取組方針（以下「行革方針」という。）を作成し、各府省はその行革方針に沿った対応が求められることから、厚生労働省における E B P M の推進に当たっては、行革方針との整合性を図りつつ検討することが必要である。

1 厚生労働省のE B P M推進に係る有識者検証会における 検証事項

厚生労働省のE B P M推進に係る有識者検証会では、次の点を検証事項として検証を行った。

(1) 行政事業レビューシートの点検・助言に係る検証

- 全ての行政事業レビューシートについて、生成 AI を活用した簡易チェックの方法等の検証を行った。
- 対象事業（108 事業）について、行政事業レビューシートの点検・助言等の検証を行った。

(2) 効果検証等に係る検証

- 過年度のE B P M実践事業から選定された対象事業について、その取組状況に係るフォローアップの検証を行った。
- 過年度のE B P M実践事業から選定された対象事業について、分析手法や分析結果の解釈等の検証を行った。

(3) その他E B P Mの取組に係る検証

- その他のE B P Mの取組について、実施方法や取組内容等の検証を行った。

(4) 今後の取組について

- 令和6年度の取組内容を踏まえ、令和7年度のE B P Mの実践について検証を行った。

(5) その他E B P Mの取組に関する全体スキームに係る検証

2 検証結果取りまとめ

前項1で示した各検証事項について、検証結果は以下のとおりである。

(1) 行政事業レビューシートの点検・助言に係る検証

①厚生労働省の主な取組

全ての行政事業レビューシートについて、「現状と課題」欄が具体的なデータを用いて論じられているか、長期アウトカムが適切に設定されているかなどについて、生成AIも活用し、職員による簡易チェックを行うこととしている。

また、概算要求額が1億円以上の事業の中から100事業程度、新規事業に関しては10億円以上の事業を対象として、行政事業レビューシートの記載内容について、委託業者による詳細なチェックを行った。

【行政事業レビューシートの主な点検項目】

全般
<ul style="list-style-type: none">専門的な用語を用いる場合、注釈等で説明されているか。
事業の目的
<ul style="list-style-type: none">事業の最終目的（目指すべき姿）を明確化した上で、その達成に向けて事業がどのように寄与するのか記載されているか。
現状・課題
<ul style="list-style-type: none">事業の目的に対応する形で具体的な現状（問題）を記載しているか。現状（問題）に対応する形で具体的な課題（原因）を記載しているか。データを用いて記載しているか。
事業の概要
<ul style="list-style-type: none">課題に対応する形で具体的に記載しているか。
アクティビティ
<ul style="list-style-type: none">事業の概要と対応する形で主要な活動を漏れなく記載しているか。国をアクティビティの実施主体として記載しているか。
アウトプット
<ul style="list-style-type: none">アクティビティをどれだけ実施するか（したか）に関する活動目標を適切に設定しているか。上記活動目標に対する活動指標を記載しているか。
短期アウトカム
<ul style="list-style-type: none">短期間（原則1～2年以内）で事業が当初の目論見どおりに進展しているかどうかを点検するための成果目標が適切に設定されているか。

<ul style="list-style-type: none"> 上記成果目標に対応する成果指標が適切に設定されているか。
中期アウトカム <ul style="list-style-type: none"> 短期アウトカムから長期アウトカムに至るまでの中間的な変化に係る成果目標が適切に設定されているか。 上記成果目標に対応する成果指標が適切に設定されているか。
長期アウトカム <ul style="list-style-type: none"> 事業の目的に対応した形で成果目標が適切に設定されているか。 上記成果目標に対応する成果指標が適切に設定されているか。
項目間のつながり <ul style="list-style-type: none"> 各段階の間のつながりについて、具体的に分かりやすく、ロジカルに記載されているか。 複数のアウトカムを設定している場合、短期、（中期）、長期アウトカムは、事業対象者や社会の段階的な行動変容や変化に関する記載となっているか。

②検証結果



③今後の課題（事務局案）

次年度以降は、次の課題に留意しながら取組を進める必要がある。

（ア）事業の必要性・重要性の適切な記載

事業を実施する必要性・重要性を確認するため、現状・課題欄では、理想と現状のギャップ及びそのギャップを引き起こしている原因について、可能な限りデータを用いて記載することを徹底することが望ましい。

（イ）事業の論理構造の適切な記載

事業の進捗・効果を適切に把握・評価するため、アウトカムを適切（段階的かつ論理的）に設定することを徹底することが望ましい。

（ウ）行政事業レビューシートに関する知識の浸透

行政事業レビューシートに関する執務参考資料を職員に浸透させ、基礎的な知識を習得させることが望ましい。

(2) 効果検証等に係る検証

①厚生労働省の主な取組

令和4・5年度のEBPM実践事業から選定された10事業（重点フォローアップ事業）について、専門的立場からロジックの整合性、適切な指標取得、効果検証を見据えた改善点等について整理しコメントした。

また、そのうち、次年度以降に効果検証を予定している3事業について、データの取得や事業の実施状況等に係る事業担当課室へのヒアリング等を行った。ヒアリングの結果、当初予定していた効果検証が実施できないことが想定される場合は、検証範囲の縮小や代替データの提示等の助言・支援を行った。

さらに、効果検証に必要なデータを取得済みの2事業について、効果検証を行い、検証方法や分析結果、政策的示唆等を取りまとめた資料を作成し、事業担当課室へ説明を行った。

②検証結果

重点フォローアップ事業への支援・助言について、事業の実施状況やデータ取得状況を踏まえながら適切な助言を行うとともに、効果検証について、取得したデータの制約等も踏まえながら、適切な手法を用いて分析しており、概ね妥当である。

③今後の課題

次年度以降は、次の課題に留意しながら取組を進める必要がある。

（ア）検証に向けたフォロー

リサーチデザインを事前に設計していることを踏まえ、設計に変更が生じた際には、適切な代替案を提示・検討するなど、担当部局に対して、効果検証に向けたデータ取得等を継続的に支援することが望ましい。

（イ）背景・文脈の把握

政策を評価する上で、その目的や内容、制度変更を行った要因等、背景となる情報を収集した上で、分析結果を整理・解釈することが望ましい。

（ウ）前向き検証の実践

実施上のコストが生じないようなやり方で、厚生労働省の事業の中から、試行的にRCT（ランダム化比較試験）等の「前向き検証」を行うことを検討することが望ましい。

(エ) コスト観点からの分析

政策の実装を踏まえると、各政策を実施する上でのコストという観点からも分析することが望ましい。

(オ) 受益者視点の効果検証

効果検証に当たって、政策の対象者だけではなく、実際に行政サービスを受ける受益者への効果も検討するなど、広がりのある効果検証を検討することが望ましい。

(3) その他 E B P M の取組に係る検証

① 厚生労働省の主な取組

E B P M よろず相談所を開設。専門家を配置し、各部局の職員から寄せられる E B P M に関連する相談に専門的知見を活用しつつ対応を行った。

また、職員を対象とした E B P M 研修を e ラーニング形式や集合形式で実施し、E B P M に関する基礎的・実践的な知識の習得を促した。

② 検証結果



③ 今後の課題



(4) 今後の取組について

①厚生労働省の主な取組

政府全体の取組方針や令和 6 年度 of 取組内容等を踏まえ、令和 7 年度の E B P M の実践について次のとおりまとめた。

令和 7 年度の E B P M の実践について

- 予算事業については行政事業レビューシート（以下「RS」という。）を活用し「基礎的な E B P M」を実践する。
- 全ての RS を対象とした職員による簡易チェック及び特定の RS^{※1}を対象とした専門家による詳細チェックを実施し、RS の品質管理を進める。
- 過年度の E B P M 実践事業については、ロジックモデル等の内容を更新するなどして取組を継続する。^{※2}
- 優良事業改善事例の選定など、その他の取組については、政府の方針に沿って対応していく。

※1 既存事業に関しては 1 億円以上の事業の中から 100 事業程度、新規事業に関しては 10 億円以上の事業を対象

※2 重点フォローアップ事業に対する支援については令和 7 年度まで、効果検証対象事業の効果検証については令和 8 年度まで取組を継続する予定

また、令和 7 年度の E B P M の実践にかかる各取組を、次のとおりまとめた。

令和 7 年度の E B P M の実践にかかる各取組について

- E B P M よろず相談所
 - 毎週 1 回（令和 7 年 10 月以降は隔週 1 回）、1 回あたり 2 時間、E B P M よろず相談所を開設。専門家を配置し、各部局の職員から寄せられる E B P M に関連する相談に専門的知見を活用しつつ対応を行う。（令和 7 年 4 月～令和 8 年 2 月）
- 行政事業レビューシートの確認
 - 全ての行政事業レビューシートについて、「現状と課題」欄が具体的なデータを用いて論じられているか、長期アウトカムが適切に設定されているかなどについて、生成 AI の活用も視野に入れて、職員による簡易チェックを行う。（令和 7 年 9 月～令和 8 年 3 月）
 - 概算要求額が 1 億円以上の事業の中から 100 事業程度、新規事業に関しては 10 億円以上の事業を対象として、行政事業レビューシートの記載内容について、専門家による詳細なチェックを行う。（令和 7 年 9 月～令和 8 年 3 月）

- 過年度の重点フォローアップ事業への支援・助言
 - 令和５年度のＥＢＰＭ実践事業から選定された５事業について、専門的立場からロジックの整合性、適切な指標取得、効果検証を見据えた改善点等について助言を行う。（令和７年６月～７月、令和７年１２月～令和８年１月）
- 効果検証
 - 令和４、５年度選定の効果検証対象事業（計３事業）のうち、「困難な問題を抱える女性支援推進等事業」について、検証作業を行う予定。
 - 残りの２事業については、令和８年度以降に検証作業を行う予定。（令和７年７月～令和８年２月）
- EBPM 研修
 - 行政事業レビューシートの担当職員を対象として、行政事業レビューシートを用いて実施する「基礎的なＥＢＰＭ」に関する実践的な知識の習得等を目的とするＥＢＰＭ実践担当者研修を実施する。（令和７年５月）
 - ＥＢＰＭに関する実務経験が少ない職員を対象として、アウトカム志向による問題解決を始め、ＥＢＰＭに関する基礎的な知識を習得してもらうための基礎研修を実施する。（令和７年１０月）
 - ＥＢＰＭの実践に取り組む職員、関心の高い職員等を対象として、政策・施策効果の考え方を始め、ＥＢＰＭに関する発展的な知識を習得してもらうための応用研修を実施する。（令和７年１１月）

②検証結果



③今後の課題



(5) その他 E B P M の取組に関する全体スキームに係る検証

参 考 資 料

厚生労働省のE B P M推進に係る有識者検証会開催要綱

1 目的

株式会社メトリクスワークコンサルタンツでは、厚生労働省から委託を受け、令和6年度にE B P M推進に関する業務一式事業を実施している。

本事業の一環として、「厚生労働省統計改革ビジョン 2019 工程表」（令和元年 10 月 8 日）及び「厚生労働省統計改革工程表」（令和 4 年 12 月 23 日）に基づき、外部有識者によるE B P Mの実践状況の検証等を行い、E B P Mの更なる推進を図ることを目的として開催する。

2 検証事項

- （1）行政事業レビューシートの点検・助言に係る検証
- （2）効果検証等に係る検証
- （3）その他E B P Mの取組に係る検証

3 構成員

別紙のとおり

4 運営等

- （1）検証会は、株式会社メトリクスワークコンサルタンツが別紙の構成員の参集を求めて開催する。
- （2）検証会は、構成員のうち1人を座長として選出する。
- （3）検証会は、座長代理を置くことができる。
座長代理は、座長が構成員の中から指名するものとし、座長を補佐し、座長不在の場合にはその職務を行う。
- （4）座長は、検証会において必要があると認めるときは、構成員以外の関係者に検証会への出席を求め、意見を聴くことができる。
- （5）検証会の議事概要及び資料は、原則として公開する。ただし、座長は、公開することにより検討に著しい支障を及ぼすおそれがあると認めるとき、その他正当な理由があると認めるときは、非公開とすることができる。
- （6）検証会の庶務は、株式会社メトリクスワークコンサルタンツにおいて行う。
- （7）前各項のほか、検証会の運営その他の検証会に関し必要な事項は、座長が定める。

別紙

厚生労働省のE B P M推進に係る有識者検証会構成員

(五十音順、敬称略、◎座長)

安藤 道人 立教大学 経済学部 教授

小野 達也 追手門学院大学 地域創造学部 教授

高久 玲音 一橋大学 経済学部 教授

◎ 田中 隆一 東京大学 社会科学研究所 教授

検証会の開催状況等

◆開催状況

第 1 回：令和 6 年 12 月 9 日（月）15:00～17:00 WEB 会議形式

第 2 回：令和 7 年 2 月 13 日（木）15:00～17:00 WEB 会議形式

◆厚生労働省

参事官（政策立案・評価担当参事官室長）	三村 国雄
政策立案・評価推進官	菊池 清隆
政策企画官	白木 紀行
政策立案・評価担当参事官室室長補佐	佐々木 和之
政策立案・評価担当参事官室統計利活用専門官	山本 剛史

◆事務局 株式会社メトリクスワークコンサルタンツ

代表取締役	西野 宏
チーフコンサルタント	有本 寛
コンサルタント	徳田 尚也

◆検証会資料及び議事概要等【厚生労働省ホームページ（URL）】

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_46461.html